

<2017年3月期第1四半期 決算説明会 主な質疑応答>

日時 : 2016年7月29日(金) 17:45~18:20

出席者: 常務取締役 柳瀬 英喜

執行役員 富永 浩史

執行役員 岩本 秀之

金属本部の営業利益減益要因は。

円高や市況悪化により減益となったが、マーケット自体はタイ、アメリカ共に悪くない。タイの自動車生産台数減は底を打ったとみている。

エレクトロニクス事業の減益要因は。

スマホ関連事業とアミューズメント関連の電子デバイス事業の悪化に加えて、一過性の評価損の発生によるもの。

自動車本部の営業利益減益要因は。

自動車販売は、例えばケニアは増税により買い控えが発生、パプアニューギニアは資源安影響により業績が悪化傾向。CFAOの自動車事業も販売が減少しており、今年度いっぱい厳しい環境が続く見込み。

CFAOの自動車事業の状況について。

円高による為替換算影響に加えて、特に西アフリカの資源国であるコンゴ、ナイジェリア等で販売不振。一方で、セネガル、マリ、カメルーン等は予想以上に推移。

CFAO コンシューマー事業の減益要因と今後の見通しは。

コンゴの飲料事業は、景気の悪化や競争激化等により減益。

リテール事業は、一過性の先行開発費用の発生により減益となったが、第2四半期以降は落ち着く見込み。

CFAOのリテール事業を切り出すと聞いたが。

不動産保有会社を切り出したにすぎない。リテール事業そのものはカルフルと共同で行っており、その他ブランド事業も当社主導で進めていることに変更はない。

食料・生活産業本部の計画進捗状況は。

CFAOの飲料事業低迷等により計画からは若干下振れている。

今第1四半期よりキャッシュ・フローを開示するようになった理由は。

開示拡充を図るべく、今期より自発的に四半期毎のキャッシュ・フローを開示することとした。

投資額が少なく見えるが、今期の投資計画は。

世界経済の不確実性が高く、足元では投資審査を厳しくし、意図的に投資を抑えている。

以上